

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 7月 7日

【評価実施概要】

事業所番号	0172001000		
法人名	有限会社 優春		
事業所名	グループホーム 竹とんぼ		
所在地	小樽市長橋5丁目14番8号 (電 話) 0 1 3 4 - 2 1 - 4 5 0 0		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成20年 7月 4日	評価確定日	平成20年7月31日

【情報提供票より】 (20年 6月 15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年 3月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤 18人 非常勤 1人 常勤換算 12.6人	

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1～2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	25,000 円
			暖房費 5,000 円
敷 金	有 (円) ・ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,300 円		

(4) 利用者の概要 (6月 15日現在)

利用者人数	17 名	男性 4 名	女性 13 名
要介護1	5 名	要介護2	7 名
要介護3	3 名	要介護4	2 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 79 歳	最低 67 歳	最高 90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	三ツ山病院、石橋病院、板谷内科、細川歯科
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

竹とんぼは、運営者の地元で立地し、地域の応援を得て、地域密着型のホームとしての存在感が増しています。ホーム内は開放的で清潔感がある家庭的な雰囲気のある住環境です。利用者本位の暮らしの支援に、職員の工夫やアイデアが活かされ、運営者、管理者を中心にホーム全体が、信頼と一体感あるケアサービスの実践に努力しています。日常生活が、機能回復、低下予防に繋がり、楽しみながら家事や野菜作りをし、ふるさと訪問や泊旅行に出かけ、利用者はゆったりと張りのある豊かな日々を過ごしています。医療機関の協力体制も充実し、利用者の穏やかな生活は家族の安心と感謝に繋がっています。利用者の個性を活かし、家族のような暖かな目線の支援に熱心な取り組みが伺われます。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	今回が初めての外部評価であり、今後の取り組みに期待します。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価には、真摯に向き合っの取り組みが伺えますが、職員全員による自己評価は実施されていません。評価の意義に対する理解を深めて、職員全体で課題を明確にし、具体的改善に向けた検討を重ね、サービス向上への取り組みに期待します。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は開設当初より6回の会議が開催され、充実してきています。ホームの現状報告とともに、協力医師の講義なども盛り込み、ホームへの理解、啓発に努めています。メンバーからの意見、提案を受け、運営に反映し、地域との交流拡大に繋げています。特に「夏祭り」は運営推進会議の功績の大きさが伺えます。今後は、地域密着をさらに深めていくためにメンバーの拡大に取り組むことを期待します。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族が意見、要望を出しづらい心情を理解し、話し易い雰囲気作りに努めていますが、ホームの状況、利用者の現状など、情報のよりきめ細かな発信を心掛け、家族の率直な意見などを聞き取る方策の検討が望まれます。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	町内会に加入し、会館、公園の清掃協力を行なうとともに、町内会や地域のボランティアの協力を得て、地元住民、家族参加型の大規模な「夏祭り」開催、災害時の協力体制など地域住民との双方向の交流、連携を活発に展開してきています。また中学生ボランティア、幼稚園児とのクリスマス会なども催され、今後に子供達との交流拡大を目指しています。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営者の地元でもあり、開設当初より地域性を重視した良好な関係に努めてきています。従来の基本理念を見直し、利用者の生活を主体とし、地域密着型サービスの役割を目指した理念が構築されています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、ホームの見やすい場所に掲示され、日々の申し送りや会議でその具現化に向けて協議し、職員全体で共通認識の下、日常ケアサービスの実践に取り組んでいます。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	会館、公園清掃への協力を行なうとともに、町内会や地域ボランティアの大きな協力を得て、地元住民、家族参加型の大規模な「夏祭り」を開催、また中学職業体験研修の受け入れ、幼稚園児の来訪など地域住民との双方向の交流が活発に展開されています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年は外部評価実施に至ることができず、今回が初めての評価です。自らのケアサービスについて真摯に向き合っただけの評価取り組みが何えませんが、ホーム全体としてではなく、管理者、介護支援専門員、一部の職員による取り組みに終始しています。	○	評価の意義に対する理解をさらに深めて、各ユニットごとに全職員で取り組み、課題を明確にし、具体的改善に向け職員全員で検討し、外部評価に繋げるなど、ホーム全体でより良いサービス提供への取り組みに期待します。

小樽市 グループホーム 竹とんぼ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開設当初から6回の会議を開催し、ホームの現状報告とともに協力医師による講義なども盛り込み、ホームへの理解に努めています。メンバーの意見や提案を受け、運営への反映や地域との交流拡大に繋げてきていますが、行政職員の参加は見られません。	○	運営推進会議が深まりを見せていますが、行政職員などの参加の積極的な招聘、ホームに係わりある関係者の柔軟なメンバー拡大も考慮し、定期的実施しながら、多様な意見を運営に反映させ、サービスの質の確保に取り組むことを期待します。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市への調査協力、介護保険業務や利用者情報などで連携が取られています。グループホーム連絡協議会に出席し、助言や情報を得ています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の状態変化は、家族の方々に速やかに連絡し、家族の来訪時には日々の利用者の状況報告を実施しています。毎月の請求書送付時に、一人ひとりの暮らしぶりや健康状態などのお便りを同封していますが、全体として情報の提供が多くはありません。	○	年に1度写真掲載の広報は作成されていますが、家族を対象としての通信を発行し、家族が知りたいと思われる情報のよりきめ細かな発信を期待します。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置はありますが、利用はされていません。家族が意見や苦情を出しづらい心情を理解し、話しやすい雰囲気作りなどの工夫をしています。意見などは個別対応やミーティングなどで検討し、運営に繋げていますが、意見、要望などの十分な聴取に至っていません。	○	家族の訪問時や様々な機会を捉えて、家族の率直な意見、要望などをさらに聞き取る技術やその方策を検討し、運営に活かしていくことを期待します。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、利用者にとっての馴染みの関係を大切に捉えており、職員の退職や異動は多くありません。ケアサービスの格差是正目的でのユニット間異動の際には、事前に関係性への配慮や、確実な引継ぎを実施し、利用者に与える影響の軽減に努めています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の機会には、ホームとしてローテーションの調整などを行ない、職員に積極的な参加を促し、出席しています。研修後の報告、感想発表、資料の共有などの実施、また毎月法人内研修として、基本に立ち返って介護全般についての勉強会を開催し、ホーム全体のレベルアップに取り組んでいます。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ほかの業者とは、グループホーム連絡協議会での研修参加や、情報交換などが行なわれてきていますが、実質的交流は多くありません。	○	現在近隣のほかの業者とは、ホームの夏祭などに招待するなどの交流は持たれていますが、一歩進めて職員レベルでの相互訪問や学習会などの機会を持ち、ともにサービスの向上に活かす取り組みを期待します。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望者の自宅訪問や入院先への訪問、ホームの見学へのお誘いなど、利用に向けてのプロセスを経ています。早急な利用開始の場合もあり、利用者の気持ちを受け止めつつ、できるだけ早期に安心感ある関係を構築し、利用者の新しい暮らしを支えるための工夫や配慮をしています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の思いや意向を把握し、持てる力をより発揮できる場面を工夫し、その人らしく生きることの支援に努めています。日常の家事などを一緒に行ない、遠方までの「ふるさと訪問」では喜びを分かち合い、ともに支え合う関係が築かれています。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴などの個人の基本情報の収集に取り組んでいます。日々の暮らしの中では言語、非言語的コミュニケーションを通して、介護実践者として、また家族の視点として利用者の思いや希望など、利用者一人ひとりの全体像の把握に努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族の意向を聴取し、計画作成担当者を中心に、日々の介護記録や担当職員による課題分析、評価を参考に、職員全員での意見交換を実施し検討を行なっています。医師からのアドバイスなども盛り込み、関係者それぞれの意見を反映した個別性の高い介護計画を作成しています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	申し送り時や、毎月の会議で利用者一人ひとりに関しての状況の確認を行ない、3ヵ月の期間に応じて見直しを行なうとともに、一人ひとりの実情に即した介護計画の修正、見直しが実施されています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院の送迎、自宅への帰宅、また家族の来訪の際には停留所までの送迎など、利用者や家族のその時々々の状況、要望に応じ、臨機応変、かつ柔軟に支援しています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	複数の協力医療機関の訪問診療のほか、希望のかかりつけ医の受診支援を行なっています。医療機関との良好な協力関係により、利用者が適切な医療支援を受けられるよう配慮しています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や、終末期については、ホームの方向性として、利用契約時に家族との話し合いが持たれています。状態変化時には医師からの指示も受け、家族など関係者で対応の共有がされています。方針の文書化は今後の取り組みになっています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、親しみはあるが礼節を保った良好な関係性を大切にしており、利用者のプライドやプライバシーを損なう対応は見受けられません。個人情報保護に関する同意書を得て、その取り扱いに注意を払っていますが、一部において管理の不十分さが見られます。	○	職員間で、個人情報保護についての確認を実施し、利用者の個人情報他人の目に触れぬよう、更なる管理の徹底を期待します。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の基本的流れはありますが、ホームの決まり事を優先しないことを確認し、利用者一人ひとりのペース、希望に合わせ、できる限りの支援を実践しています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者それぞれの好みやできる事で、食材の刻み、調理、味付け、後片付けなどに主体的に係わっています。職員はアイデアを出し合い、一人ひとりの力の発揮を助け、一緒に作業する中で利用者の達成感や満足感のある楽しい食事支援を行なっています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	最低でも週2回、夏場は毎日のシャワー浴など利用者の希望や状況、気持ちに合わせて、利用者全員の夜間の就寝前の入浴を実施しており、利用者のゆったりとした気分や安眠に繋がっています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事全般や畑仕事、収穫、カラオケなど日常の生活が、利用者それぞれの張りや喜び、リハビリに繋がる場の提供の工夫や、自発性を大切にした支援を実施しています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常の買物や散歩、野菜作りや季節状況に合わせての外出先の工夫をしています。ホーム全体での一泊旅行や選べる外食ツアーなど、できるだけ個別に利用者主体の外出支援に積極的に取り組んでいます。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠することの弊害を理解し、利用者が活動的な時間帯は開錠しています。利用者の傾向などを理解し、見守りながら一緒に外出したり、近隣の協力も得て、自由な暮らしを支援しています。		

小樽市 グループホーム 竹とんぼ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回地元消防署の協力を得て消火、避難訓練を実施しています。災害時における対応のマニュアル、近隣住民への協力依頼、連絡網が作成されていますが、様々な災害や夜間を想定しての実践的訓練は十分ではありません。	○	日頃から全職員間で様々な災害時における具体的な対応策を検討し、慌てず確実な避難誘導にができるよう、地域との協力を得て実践的訓練への取り組みを期待します。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	協力病院の管理栄養士の指導を受け、食事バランス、カロリーチェックを実施しています。毎日の食事、水分摂取量を記録し、健康状態や体重増減など、一日を通して一人ひとりに応じた食生活の支援を行なっています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内はバリアフリーに配慮され、安全で機能的な工夫が施されています。家庭的で開放感あるリビング、キッチンからは、調理の匂いや心地よい生活音が聞こえ、窓越しの木々の緑が季節感を醸しだしています。和室や玄関ホールのベンチ、ゆったりとしたソファなど居心地の良い寛ぎの空間になっています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は収納力あるクローゼットが設置され、すっきりと片付けやすくなっている。馴染みの家具や好みの品物が自由に持ち込まれ、また持ち物の少ない利用者の意向も確認しながら、職員の気配りもされ、利用者一人ひとりの落ち着ける居場所になっています。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。